



基本項目記入数

25

チャレンジ項目記入数

11

分類	No.	チェック項目	基本	チャレ ン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・汚水による河川汚濁防止対策を行うとともに、廃材は分別し適切に処理を行っている。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1					
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・事務所では節電を心がけることで、エネルギー使用量の削減に取り組んでいる。 ・CO2排出量算定システムを導入しており、自社のエネルギー使用量を把握するとともに、「事業活動温暖化対策計画書」による削減施策を講じている。							7.3						13							
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・排ガス対策等の環境対策型重機を導入することで、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。 ・CO2排出量算定システムを導入しており、自社の温室効果ガス排出量を把握するとともに、「事業活動温暖化対策計画書」による削減施策を講じている。		2.4						7.2 7.3 7.a				12.4	13	14	15					
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・河川工事に於いて汚濁防止シート使用を徹底することで、アユ等の生息地保全に取り組んでいる。 ・太陽光設置の際は、県・町との協定書を締結し、周辺環境に悪影響を及ぼさない様な施工を実施している。						6.6									14	15				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・事務所では裏紙の利用を徹底している。 ・使用する資材や製品は、再生材のものを推奨している。									9.4			12.2 12.4 12.5			14.1	15				
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・河川工事の際は、汚濁防止対策を徹底している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5				14.1 14.2 14.3	15		17		
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・使用する資材や製品は、再生材のものや環境に配慮したものを推奨している。									9.4			12.4 12.5	13	14	15					
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●									6.4						12.3			14	15		17	
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・事務所敷地内に樹木を植える等、植栽に取り組んでいる。 ・清掃ボランティアに参加することで、地域の緑化・管理に貢献している。												11.6 11.7			13.1 13.3		15		17	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●		・発電出力1290Kwと500Kwの太陽光発電を所有しエネルギーを供給することで、再生可能エネルギーの普及に貢献している。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5			13.1 13.3					
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●								6				9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●								6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●															12.2 12.5			14				
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●		・営業車両にHV車を導入している。 ・現場へ車で移動する際は、複数人で乗り合わせるよう徹底している。										9.4		11.2			13.1 13.3					
36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●										7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13					17.2		

